

第40回日本医療福祉設備学会に向けて（その3）

第40回日本医療福祉設備学会
副学会長 池川 充洋
(株)ケアコム 代表取締役社長

2011年11月9日(水)～10日(木)に第40回日本医療福祉設備学会が、一般社団法人日本医療福祉設備協会（HEAJ）主催により開催されます。また、併設展示 HOSPEX Japan 2011は、社団法人日本能率協会との共催により2011年11月9日(水)～11日(金)に開催されます。

学会のメインテーマは「生活支援・医療連携・生きがいづくり実現のための医療・福祉設備」です。本誌「病院設備」でも、信川学会長、本多副学会長より当学会の狙いについて発信されてきました。今回は学会参加対象者である「研究者」・「施設管理者・運営者」・「企業」・「一般参加者」、それぞれの参加メリットを考慮し、プログラムを具体化していく取り組みについて報告いたします。

信川学会長より1月号にて発信しました6つのテーマ、①「施設内設備から、健やかに生きることのできる街づくりのための医療福祉設備のソフト・ハードの活用による地域への拡大」、②「従来の学会テーマの継続」、③「日本医療福祉設備協会活動との連携」、④「産学連携の接点の場としての機能」、⑤「専門家との接点の場」、⑥「医療福祉設備機器展示会との融合企画の充実による連携の強化」についてその検討状況を以下に述べます。

① 施設内設備から、健やかに生きることのできる街づくりのための医療福祉設備のソフト・ハードの活用による地域への拡大

今回の学会主要テーマである街づくりの視点で、施設内設備に留まらず施設間や地域包括的サービス具体化を進める研究者・企業が多く検討に参加頂ける場を創出します。従来の学会プログラム検討を進めるプログラム委員会に加え、具体的テーマを検討する「企画委員会」を立ち上げました。現在「高齢者向け空間のシステムデザイン」と、「地域医療福祉連携システムの構築」の2テーマの企画委員会にて検討が進んでいます。特に当企画委員会に参加いただいている企業が検討する学会参画メリットを通し、プログラムの具体化に加え、当学会の新たな価値を見出していきたいと考えています。

② 従来の学会テーマの継続

安全管理・健康・コミュニケーション・インフラ・グローバルなどの従来の学会テーマを継続性することも重要です。最新の研究成果、先端研究発表の場としての定義、さらに参加者にとって最新情報確認の場としての認知は今回もプログラム委員会中心に検討を進めます。医療・福祉施設において利用される設備を取り上げる場は他にはありません。当学会の特長・強みを継続していくこと、そこに新たなテーマである「街づくり」という観点を加え、検討メンバーの拡充により従来の学会テーマ継続性の中にも新たな視点を加えていくことが重要となります。検討委員の幅も大きく広がった今回、大きなチャンスとして認識していきたいと考えています。

③ 日本医療福祉設備協会活動との連携

日本医療福祉設備協会は、参加している研究者・企業に対し複数のサービスを提供しています。その成果をさらに広く発信するために当学会にて取り上げ、協会活動への参加を促すこと、学会・協会への参加メリットをアピールしていくことが必要です。参加者のニーズを共有しテーマアップの具体化を検討し、さらには参加者主導による学会テーマの具体化を進める、などの取り組みを検討していきたいと考えています。

④ 産学連携の接点の場としての機能

従来通り継続性を保ち最新の研究報告の場として機能することに加え、施設管理者・施設運営者・企業との共同研究を活発化するための場として機能していくことが重要と考えます。今回の学会では「活動報告」として研究者・施設管理者・施設運営者・企業の共同研究成果発表の時間を設定しました。先端の共同研究成果の報告の場として当学会を活用していただきたいと思います。またより良い設備の創造などの共同研究をさらに進めるために、この場を研究者と共同研究に取り組もうとする施設管理者・施設運営者や企業の接点として位置付けていくことも狙いに含まれます。そのためにも学会プログラム検討の場には多くの企業に参加いただいています。学術研究報告の場に加え、共同研究成果の利用者拡大、新規事業の創造を検討していくことも今回の学会の大きな狙いです。

⑤ 専門家との接点の場

病院設備運用管理技術者(仮称)、地域見守りコーディネータなどの専門家との接点を提供し、学会参加者にとり疑問を解消する場、相談を実現する場としても機能するよう検討します。

また「住宅設備の健康住宅ガイドライン」の策定などの新たな取り組みを支援、発信する場として位置付け、課題の共有と解決策の具体化を進めていきます。

⑥ 医療福祉設備機器展示会との融合企画の充実による連携の強化

日本医療福祉設備学会、HOSPEX Japan2011及び日本医療福祉設備協会誌「病院設備」との融合企画を充実することにより、展示会との連携を強化します。前述した「高齢者向け空間のシステムデザイン」・「地域医療福祉連携システムの構築」委員の方々はすべて展示会実行委員を兼務しております。実際のシステムを参加者にご覧いただくことは意義あることです。学会参加者が学会で認識した課題を解決するためにシステムを展示会で確認する、こうした学会と展示会との相乗効果を展示会参加企業にも認識していただけるようなプログラムを検討していきます。

是非、こうした学会の狙い、取り組み、検討の場、参加メリットにご賛同いただき、研究者の皆様、施設管理・運用者の皆様、参加検討企業の皆様には積極的に参加していただくことをお願い致します。また、一般演題、活動報告に応募いただき、論文発表や活動報告をお願い致します。皆様にとって有意義な学会、展示会としていくよう検討を重ねてまいります。ご期待下さい。

学会及び展示会の準備状況などの情報は、学会ホームページ、協会誌「病院設備」、HOSPEX Japan 2011ホームページなどより入手をお願い致します。